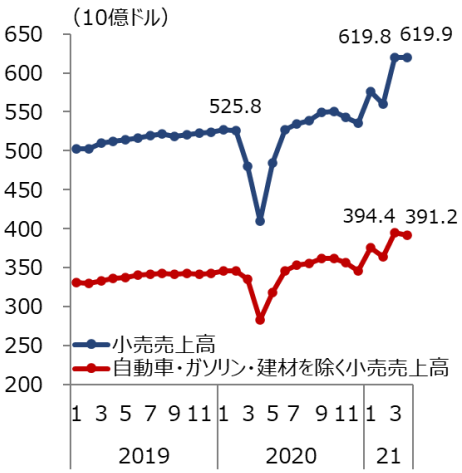
米国

小売売上高（2021年4月）

現金給付で急増した前月から横ばい、消費は堅調に推移

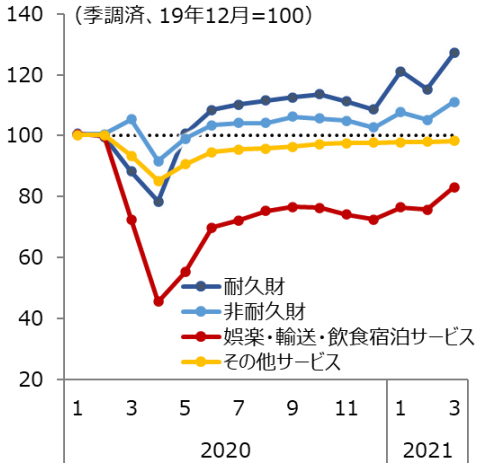
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 小売売上高（金額）



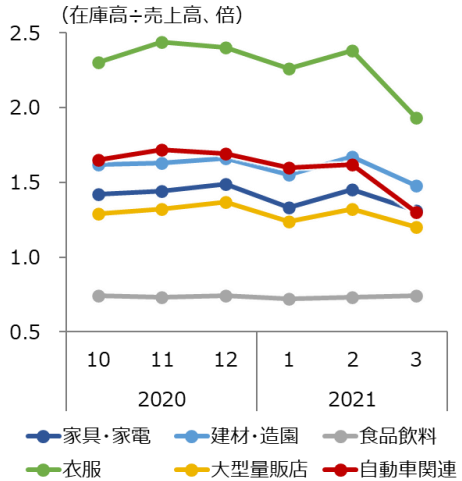
出所：米国商務省

2 項目別の家計実質支出



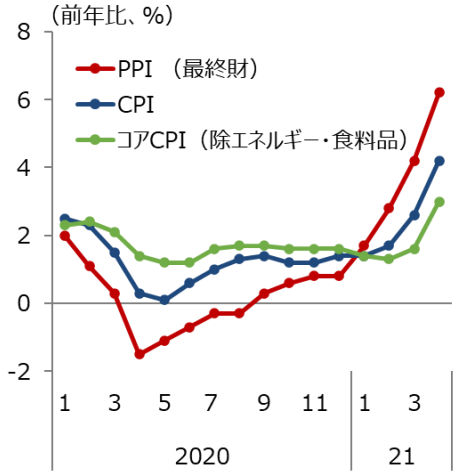
注：直近は3月。 出所：米国商務省

3 小売売上高・在庫比率



注：直近は3月。 出所：米国商務省

4 CPI・PPI



出所：米国商務省

評価ポイント

今回の結果

- 2021年4月の米国小売売上高（5/14公表）は、前月比+0.0%と、前月から横ばいとなった。また、基調を示すコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売売上高）は同▲0.8%だった（図表1）。
- 内訳をみると、外食（同+3.0%）や自動車関連（同2.9%）などで売上が増加した反面、衣服（同▲5.1%）や大型量販店（同▲4.9%）などでは売上が減少した。

基調判断と今後の流れ

- 現金給付によって消費が急増した前月から横ばいとなり、個人消費は堅調に推移している。先行きも、行動抑制がさらに緩和されるにつれて、貯蓄が消費に回ることが期待されることから、個人消費は堅調に推移すると見込む。
- また、消費項目もモノ消費中心からコト消費へと広がっていくだろう。娯楽・輸送・飲食宿泊などの外出関連サービスに対する支出はコロナ危機前（19年12月）を下回っているものの回復傾向であり（図表2）、今後もペントアップ需要による消費押上げが期待できる。
- 一方、今後リスクとなりうるのが、供給制約による在庫の減少と物価上昇だ。世界的な半導体による減産の影響で、自動車関連の小売在庫比率が低下するなど（図表3）、旺盛な需要に供給が追い付かなくなる可能性がある。
- また、4月の消費者物価指数（CPI）は前年比+4.2%（前月比+0.8%）と、物価が落ち込んだ前年同月からの反動もあり大きく上昇した。（図表4）。
- 項目別では航空運賃（前月比+10.2%）、ホテル等宿泊（同+7.6%）といった経済活動再開に伴い需要が回復したことによる物価上昇のほか、PC・周辺機器（同+5.1%）や新車の在庫不足によって需要が増加した中古車（同+10.0%）など、半導体不足に起因する物価上昇も見られた。物価上昇は、実質所得の低下を通じて個人消費の重しとなる。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.